



西浦小学校 150 年の不易と流行

校長

35 日間の夏休みが終わりました。「今年の夏の暑さは特別ですね。」「熱中症に気をつけましょう。」と言いつけた夏休みでした。引き続き、暑さや湿度に気をつけ、子どもたちの体調管理に努めていきます。

夏休みの間、校長室を整理していると、戸棚から古いアルバムがたくさん出てきました。一番古い物で昭和2年の学校の様子や児童の集合写真がありました。昭和、平成と西浦小学校の変遷がアルバムの中に収められていました。150周年を迎える記念の年に、子どもたちにも西浦小の150年の不易と流行を知ってもらおうと、アルバムや「郷土史ふるさと西浦」（平成8年西浦文化研究会より刊行）等から調べてみました。

西浦小の前身は、江戸時代の寺子屋や私塾でした。西浦の各地には計6ヶ所の寺子屋や私塾が開かれており、防府地方の嚆矢「こうし」（意味：ものごとの始まり、起源）とされていたそうです。西浦で、教育が熱心に行われていることは、今も昔も変わりません。

1872年（明治5年）に明治政府より「学制」が公布され、国民が教育を平等に受けられるよう小学校を全国一斉に設立する事となりました。西浦では、翌年に信行寺を仮校舎として「西浦小学」が設立されました。明治10年に現在の地に新校舎が完成し、また、潮合分教場や新開作分教場が設立されました。さらに学校の名前も、世の中の動きとともに変わっていきました。「防府市立西浦小学校」と改称されたのは昭和22年です。当時の児童数は最大の694名でした。（学級数15）

校歌も変化しています。今の校歌は昭和37年に新校舎の落成を記念して制定されました。校舎も児童数の変化とともに増築や建て替えをし、今の校舎となりました。アルバムにはその建て替え工事の様子も収められています。

アルバムの中で、今と変わらないものもありました。それは、子どもたちの学習に向かう真剣なまなざしと、たくさんの笑顔です。西浦小学校を巣立った卒業生は8080人です。その一人ひとりが毎日一生懸命に学び、様々な体験や経験をし、大きく成長していったことでしょう。卒業する際は、下学年にすばらしい西浦小学校にしてほしいという願いをもちバトンを渡していったことでしょう。

150周年の2学期が始まりました。今の西浦小の子どもたちも一日一日を大切に、友達と仲良く楽しく笑顔で過ごしてほしいと思います。子どもたちが新しいことにチャレンジしながら成長し続けること、なにより、子どもたちの笑顔が絶えない学校を作り続けること、これからも西浦小学校の不易と流行を大切にしながら実現させていきます。

※11月11日（土）の150周年記念の会の際にアルバムを展示します。ぜひご覧ください。

学校評価アンケートの集計結果より（裏面に集計結果）

学校評価アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。集計結果から見えてきた成果や課題について、以下のとおりご報告させていただきます。また、皆様より様々な面からお気づきをいただきました。ご意見につきまして十分に検討してまいります。

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○児童は一生懸命に学習に取り組んでいる。今後も児童が考えを深めていく授業を実践していく。 ○家庭学習に取り組んでいる。今後、自主学習も含め児童が興味関心をもち計画的に進めること、苦手を克服する目的をもち学習すること等、継続して指導していく。 ○自分から良い行いをする児童が多い。良い言動に対して周囲が気づきほめることで、児童の自尊感情も向上する。ご家庭や地域の皆さんとともにやっていきたい。 ○交通ルールを守る意識が高い。自他の命を守る意識向上のために、今後も具体的事例をもとに指導する。 ○地域と連携した教育活動が大変充実している。今後も事前に打ち合わせ等を行い、児童に付けていく力や学習のねらいについて共有して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●読書習慣を身につけていく。本の世界の楽しさを知り、本を手取る機会を増やしていく。 ●丁寧な言葉づかいを意識させる。目上の人への言葉づかい、家族や友達への伝え方等、気持ちの良い関係を作る上でも丁寧な言葉が大切である指導を続けていく。 ●今後も家庭・地域と共にあいさつの大切さを伝えていく。子どもも大人もあいさつが通い合う地域作りをめざしていく。 ●メディア視聴やゲーム使用について、体への影響や情報モラル等の指導を学校でも行っていく。自主・自律的なルール遵守について家庭と連携して行っていく。

